

沖縄本島では、この日を「浜下り」と呼ぶ。そのむかし、島の娘が、美しい青年と相思相愛の仲になった。あるとき娘は、青年の正体が蛇であると知り、母親に相談したところ、海水につかるよう指示された。娘は、蛇の子を流産した。それ以来、三月三日に海につかれば、一年のあいだに身についた不浄が海水に流れると信じられているという。

奄美大島では、別の説明を聞いた。この日に海につからないと、足の先が三つに割れてカラスになるという。『龍郷町誌 民俗編』（一九八八年）によれば、この日には、三角形の餅を食べて潮干狩りをする習わしがあった。ある話者は、三角形の餅が女性の象徴であると言ひ、別の話者は、この餅を不浄餅と呼んでいる。沖縄でも奄美地方でも、この日の行事は、女性の不浄とかかわっている。

旧暦三月三日 海に願う無病息災

旧暦三月三日は新暦では四月にあたることが多い。南西諸島の人たちは古くからこの日に海に親しんできた。奄美大島では近年、この日に海開きの神事が開かれるようになり、いつしか伝統の習わしまでも復活することになった



いいたく
飯田卓
民博文化資源研究センター
漁撈技術、漁撈における慣行と規範、漁家経済の変化などを視点に北海道、八重山諸島、マダガスカルなどの漁村を訪れ、人間の営みと自然とのかかわりについて研究する。

しかるべき調理を
ほどこして食卓にの
ぼるといふ。

磯場には、波の荒い場
所や岩の割れ目、潮だまり
など、条件の異なる小さな生
態系がたくさんある。人によつ
て得意とする漁場が違うのだから。

それぞれの採集者は特定の獲物だけをねらって、他の獲物にはそれほど関心をはらわない。

その反対に、湾奥にある砂地や泥地の干潟では、ひとつのグループがさまざまな貝類を目あてに潮干狩り

石垣島
西表島

ようである。
ただし、奄美大島北部では、「浜下り」は旧暦五月の虫払いを指している。旧暦三月三日は、たんに「三月三日」と呼ばれている。

潮干狩りに最適な三月三日

沖縄でもよい、奄美でもよい。旧暦三月三日の前後の干潮時に、海へ

をしている。アラスジケマンやリュウキュウハマグリといった二枚貝を、熊手や移植などで掘りながら探すのである。これらの貝類は、比較的小さな区域に高密度で生息しているから、腰を落ち着けておしゃべりしながら捕るのは都合がよい。近年では、車で大勢の人たちが市街地から干潟までやってきて、にぎやかに潮干狩りをおこなうようになって

海に出ている人に話を聞くと、一年のうちでこの日（旧暦三月三日）だけしか海に出ないという人もある。しかし多くの人は、この時季になると、三月三日にかぎらず頻繁に海に出るようだ。じつは、このことは、海洋物理学的にも理にかなっている。というのも、この季節は、一年のうちでもっとも潮が引く時期なのである。同じように潮の引きが大きい時期は秋にもあるが、昼よりも夜の

潮位が低い。昼間の明るさで海を楽しむには、旧暦三月三日の前後が最適なのである。

共同の行事として復活

このようにさかんな潮干狩りであるが、三月三日を特別な日としてとらえる感覚は、一般に薄らいでいるように思える。奄美大島の龍郷町で、よもぎ餅を御馳走になりながら、次のような話を聞いた。

「むかしは旧暦三月三日になると、このよもぎ餅をもって、潮干狩りに行きました。とくに、初節句を迎える娘がいる家では、その子を水につからせて、その後の成長を祈ります。潮干狩りが終わると、女の子の初節句を祝うために大勢の知人が集まり、両親がもてなしました。今は、もうやらんですね。」

もちろん、海に出て何かを捕るといふことは、あいかわらずおこなわれている。しかし、海好きな人が頻繁に海に出るのに対して、関心のない人たちは、むしろ海から遠のいている。海とのかかわりが個人化し、地域ぐるみで海とかかわることが少なくなつたといえるかもしれない。ところが近年、個人としてでなく集まった人たちがそろって三月三日を楽しむ動きが出はじめている。奄美大島では、観光物産協会や奄美市

観光課などが協力して、旧暦三月三日に海開きの神事をおこなってきた。それだけなら、観光関係者による宣伝活動に終わるところだが、近年、これに参加する市民が増えているのである。

二〇〇八年の海開きを、わたしは、奄美空港に近い観光ホテルで迎えた。そこには、神事の列席者のほか、大勢の親子連れが早くから集まっていた。初節句を迎える女の子たちを海に連れていき、海水に足をつけて成長を祈るというのである。ただし、海まで下りるのは、神事が終わって海開きが宣言されてからである。それを待つあいだ、若い母親たちは、粘土の皿に子どもの手形や足形をとっていた。観光ホテルが皿を焼きあげて、記念品として子どもたちの親に送付してくれるのである。

つまり、観光ホテルのアイデアにより、子どもたちの成長を願う行事として三月三日が見直されつつあるのである。観光ホテルは、海開きを盛りあげたかっただけだろうか。しかし、そのおかげで、忘れられようとしていた旧暦三月三日の民間行事が脚光を浴びてきている。娘に連れられて孫の初節句に居合わせたある女性は、次のように言っていた。

「今の人たちは偉いね。わたしらの若い頃には、こんなふうにしてあげられなかったけどね。」



奄美大島のホテルでおこなわれた初節句行事